

関 勝 則 「私の昭和時代」探訪。

《55》大都市横浜 発展の基盤となった「横浜六大事業」(その10)

「横浜市六大事業」は、都心部やニュータウンなど都市開発を主眼とした政策に重点が置かれていましたが、それに付随して計画に盛り込まれたのが「高速鉄道(地下鉄)建設事業」や「高速道路網建設事業」です。

この頃の横浜の鉄道は、横浜駅を中心とした国鉄(東海道線・横須賀線・京浜東北線・横浜線)、私鉄(東急線・京急線・相鉄線)の路線が主軸でした。前年に東海道新幹線が開通し、新横浜駅が開業していましたが、新横浜駅と横浜駅を結ぶ横浜線はまだ複線化されておらず、新横浜駅周辺の開発もほとんど進まない状態でした。また、京浜東北線が桜木町から磯子まで延伸して根岸線が開通しさらなる延伸が期待されている時代でした。

そんな中で、戦後に路線を拡大した横浜市電は市民の足として最盛期は約51km、1日平均約30万人の輸送人員を誇っていました。しかし、街に自動車が増加したことで市電は廃止の方向へと進み始め、すでに戦災復興期から地下鉄の建設計画は検討されていました。

昭和41(1966)年、横浜市交通局は「高速鉄道建設部」を発足。六大事業の目玉の一つとして本格的な地下鉄計画が始まりました。計画は、「郊外から都心への人員の大量輸送」、「撤去後の市電の代替」、「都心内に新設される地下鉄駅を都心再開発の発火点とする」ことを目論んだものでした。

第1期として4路線64.5km、総工事費1,550億円の建設計画が検討されました。

そのうち1号線は、戸塚区や瀬谷区、港南区、南区などの既存鉄道から離れている地域を都心部に直結させる湘南台～上大岡～吉野町～尾上町の18.6km。2号線は、横浜市の中心部を南北に走る市電の乗客を吸収し、京浜急行の輸送力を補う屏風浦～吉野町～横浜駅～神奈川新町の11.4km。3号線は、埋立や米軍住宅地の返還に伴い街の発展を期待されていた本牧と港北ニュータウンを結ぶ本牧～尾上町～横浜駅～新横浜駅～勝田の19.2km。そして4号線は、鶴見や川崎の工業地域と港北ニュータウン方面をつなぐ鶴見駅～末吉橋～勝田～元石川の15.3km。これらの計画はどれも郊外地区と都心地区とを直結する基幹路線であるとともに、東京への通勤通学輸送としても重大な役割を果せるものとして、運輸省より評価されました。

その後、昭和43(1968)年に1号線の上永谷～上大岡～尾上町間、3号線の山下町～横浜駅間の工事が始まりました。しかし、さまざまな事情により工事は難航、昭和47(1972)年12月に1号線の伊勢佐木長者町駅～上大岡駅が開業、昭和51(1976)年9月には、1号線の伊勢佐木長者町駅～関内駅、上永谷駅～上大岡駅、3号線の関内駅～横浜駅が開業し、1号線と3号線の相互直通運転が開始されました。

関 勝 則 の掲示板

局の運営方針

私が今年度所属する常任委員会が市民・にぎわいスポーツ文化・消防委員会に決まり、副委員長を務めることになりました。市民局、にぎわいスポーツ文化局、消防局の3局を所管しますが、今号ではにぎわいスポーツ文化局の事業概要についてお伝えします。

① 大規模イベントを契機とした回遊性向上と宿泊促進

令和6年度は、にぎわいによるまちの活力の創出を運営方針に掲げ、4つの柱を軸に、複雑化・多様化する社会課題や市民ニーズに対応しながら取組を推進していきます。

都心臨海部に数多く広がる魅力的な公共空間等を積極的に活用し、回遊性を高め宿泊促進を図ることで、にぎわいを創出し市内経済の活性化につなげます。また、大規模イベントの開催支援に加え、民間イベントと連携した幅広い世代が楽しめる音楽を中心とした新たなフェスティバルを今秋に開催します。

② 観光・MICEの振興

人流データの分析やインバウンドニーズ調査等に基づく戦略的なプロモーションによる国内外からの誘客促進や、経済効果の高い国際会議や医学会議等のMICE誘致、開催支援に取り組み、加えて横浜ならではの回遊ツアーや体験型コンテンツといった魅力あるアフターイベントコンベンションを意して観光消費拡大につなげます。

③ スポーツ環境の充実

誰もがともに「する」「みる」「ささえる」スポーツを身近な場所で楽しめる機会を提供することで、市民の健康増進や生きがいづくりを進め、まちの賑わいや活力を創出します。横浜武道館と横浜BUNTAN(旧横浜文化体育館)のそれぞれの特徴を生かし、市民のスポーツ参加の場や地域活性化につなげていきます。

④ 文化芸術創造都市施策の推進

次世代を担う子供たちの豊かな創造性や感性を育むための文化芸術体験の更なる充実を図り、障害の有無にかかわらず誰もが文化芸術に触れることができる環境整備を進めます。また、歴史的建造物や公共空間等の地域資源を活用し、創造的な人材や地域との連携を通じたまちづくりを進めます。

「にぎわいスポーツ文化局」の事業概要